

| | | | |
|-------------|---|---|-----|
| 事業名称 | 伊豆高原文化観光施設・ジオパーク融合型クラスター形成事業 | | |
| 実行委員会 | 伊豆高原文化観光施設・ジオパーク融合型クラスター形成事業実行委員会 | | |
| 中核館 | 池田20世紀美術館 | | |
| | 住所 | 〒414-0052 静岡県伊東市十足614 | |
| | TEL | 0557-45-2211 | FAX |
| | ホームページ | https://www.nichireki.co.jp/ikeda/ | |
| 構成団体 | 池田20世紀美術館、崔如琢美術館、象牙と石の彫刻美術館、伊豆テディベアミュージアム、高橋京子花の絵美術館、伊豆ろう人形美術館、伊豆オルゴール美術館、城ヶ崎文化資料館、伊豆高原ステンドグラス美術館、喜田川昌之わらべ絵館、アトリエロッキー万華鏡館、野坂オートマタ美術館、村上康成美術館、伊豆高原アンティークジュエリーミュージアム、大室山登山リフト（ジオパーク）、小室山観光リフト（ジオパーク）、伊東市、小室山観光リフト（ジオパーク）伊東観光施設協議会 | | |
| 事業開始時点の課題分析 | <p><u>事業開始時点の課題分析</u></p> <p>伊豆高原の文化観光施設における課題は大きく分けて(1)伊東市全体の観光需要の伸び悩みと(2)地域内の偏重である。本事業で対象エリアとしている伊豆高原を含む伊東市は、伊豆半島に位置し、2018年4月に伊豆半島ジオパークがユネスコによって認定され、新たな観光地として注目を集めている。このジオパークとの関係性に本クラスター内の美術館をはじめとする文化観光施設活性化の鍵がある。</p> <p><u>(1) 伊東市および伊豆高原全体の観光需要の伸び悩み</u></p> <p>本クラスターの対象エリアである伊豆高原を含む伊東市は、バブル以降減少する観光客数の増加を目指し、第2次伊東市観光基本計画を策定している。伊東市は観光客数を平成30年までの目標値として700万人と設定していたが、達成値は650万人前後で推移している。伊東市全体の観光需要の鈍化は伊豆高原の文化観光施設の利用者数にも大きな影響を与えている。伊東市商工会のデータによれば平成29年度の伊豆高原に位置する主要文化観光施設の入館者数は前年比5%前後の伸び率で増加傾向にあるが、全盛期の約7割程度まで落ち込んでいる。</p> <p>この目標値を達成することも含め、文化観光施設の活性化には新たな観光客を呼び込む施策が必要であるが、日本人観光客の需要はやや頭打ちとなっている。この要因としては、趣味・余暇の多様化、団塊の世代の退職に伴う余暇活動が想定ほど伸びていないことや年次有給休暇取得率が微増にとどまっていることが挙げられる。</p> <p>また近年、観光客が求めるツーリズムの変化も大きな影響を及ぼしている。観光客が情報を入手したり発信するための環境や生活様式かの変化の中で、人々の観光・余暇行動は多様化しており、観光地や旅行商品の提供者に求められるものも変わりつつある。</p> <p>特に、目的型・交流型の旅行が主流となり、これまで旅行の対象として認識されなかった地域資源を活用した観光や、エコツーリズム、医療観光などが脚光を浴びている。目的性が強く、具体的な特徴とテーマを持った旅行形態を創造することが必要である。</p> <p>本クラスターでは、この観光客の変化を的確に捉え、対象エリア内に内包された世界ジオパークなどの自然文化資源と地域文化資源を活用した伊豆高原にしか提供できない特徴ある文化観光コンテンツを提供することで、同エリアへの観光客流入拡大を目指す。</p> | | |

また伊東市は、観光客数増加の数値目標達成に向けて、上記の国内観光客増加施策に合わせて、近年増加するインバウンドを積極的に誘致するための施策を打つ必要がある。このためにはクラスターエリア内に点在する観光資源を、文化・自然に関わらず、つなぎ合わせるコンセプトを確立し回遊性を高めることが喫緊の課題である。

上記の背景から、伊豆高原を含む伊東市は新しい観光客誘引チャンネルの創出を必要としている。この新しいチャンネルおよび観光客誘引の起点となるのが本年に UNESCO に認定された伊豆半島ジオパークとそれを囲む多様な文化観光施設の面的な活用である。

特に本クラスター対象エリアにあるジオサイトとそのジオサイトを囲む100を超える文化観光施設である。この地の利を最大限活かし、点在する自然科学的文化資源と人文科学的文化資源を面的につなぎ合わせ相乗効果を持たせる仕組み作りが望まれる。

(2)伊豆高原内における観光需要の偏重と観光動線の硬直化

一方で新たな課題として、ジオパークと文化観光施設を内包する地域間に観光需要のジオパーク偏重が生じ回遊性が鈍化することも考えられる。ジオパークの誘引力の強さは国内の先行事例を参照しても明らかであり、この誘引力の強さが観光動線を硬直化させることも十分に懸念される。

本年4月に伊豆半島は世界ジオパークに登録された。そのうち本クラスターの対象エリア内には4件(大室山、城ヶ崎海岸、一碧湖、小室山)のジオサイトが対象となった。この認定によって伊豆半島全域でこのジオパークを基軸とした地域振興の機運が高まっている。しかし、ジオパークの認定によって全体の観光客数の増加は見込めるものの、ジオパークとロケーションを共有する美術館などの文化観光施設への回遊性の低下が危惧される。

このため、ジオパークと美術館などの文化観光施設をつなぐコンセプトと観光インフラを構築し、相互作用をもたらすことでこの偏重を緩和し、ジオパークの観光需要の恩恵を伊豆高原および市内まで引き込むことでジオパークも含め地域活性化の一つのステップとする必要がある。本事業でクラスターという形で地域の文化・自然資源を面的に活用することを考えなければならない。ジオパークと既存の文化観光施設が共存する観光インフラを構築し相乗効果を生み出すクラスターを形成する必要がある。

事業目的

本事業の目的は伊豆高原の文化資源および自然資源の面的活用によって、(1)クラスター内の観光需要の偏重を解消し、(2)文化観光施設の活性化をはかり、(3)伊豆高原を含む伊東市全体の経済活性化に貢献することにある。この目的を実現するためには伊豆高原の文化観光施設を中核にクラスターを形成し、伊豆半島ジオパーク、温泉観光地である伊東市を内包した形で事業環境を整備し、地域経済活性化の源泉である観光客の回遊性を高めることが必要不可欠である。

文化観光施設の活性化において国内の観光動態は無視できない重要な要素である。2020東京オリンピック・パラリンピックを契機に政府は訪日外国人観光客数の目標人数を倍増させ、2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とすることを決めた。名目国内総生産(GDP)600兆円の達成に向け、観光施策を重視している。加えて、全国200カ所の文化財を対象に修繕や多言語解説の導入などを支援し、保全重視から観光活用へ転換を促している。大型国際会議の誘致や観光の人材育成なども進め、訪日外国人の旅行消費額を現在の3兆5千億円から32年に8兆円、42年に15兆円を目指している。

本クラスターでは上記の訪日外国人観光客数の増加、文化資源の保全から観光活用への転換という潮流を念頭に事業設計を行う。特に、上野や京都といった文化産業が集積している大規模な都市圏とは異なる「地方の小規模な観光地という視点」から、文化産業を中核とした観光振興に

| | |
|-------------|--|
| | <p>よる地域経済活性化のモデル事業となるクラスター形成を目指す。また、本クラスターは日本に9箇所ある世界ジオパークに先駆け、文化産業の観点からジオパークと文化観光施設をつなぐ観光活性化スキームを構築し提案したい。</p> |
| <p>事業概要</p> | <p>本事業は文化観光施設が集積する伊豆高原（静岡県伊東市）を中心とし文化芸術と自然を融合したクラスター形成事業である。本クラスターは文化芸術の視点から、観光振興を通じた、地域経済への貢献と地域の文化を担う文化観光施設の持続的な発展を目指した事業体である。</p> <p>本クラスターの対象地域である伊豆高原は2018年にユネスコにジオパーク（世界認定）に認定され、同地域は4つのジオサイトを内包する。特に大室山は地域の風土や文化に大きな影響を与える「生活と観光」のシンボルであり、ジオパークに認定される前から地域内外の人々から親しまれるスポットである。</p> <p>伊豆高原は別荘地として美術館などが設置され開発されてきた歴史を持つ。いつときは年間1000万人に迫る観光客が訪れていたが、バブルがはじけてから近年では微増しているが650万人と推移している。この落ち込みは当然に観光産業が中心の伊東市全域で地域経済に負の影響を及ぼしている。</p> <p>一方で、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでには4000万人のインバウンドが見込まれ、東京からも近い伊豆高原にもその恩恵を享受するポテンシャルはある。</p> <p>そこで、本事業ではインバウンドを地域に呼び込み、地域経済の起爆剤とする。そのためには、地域の特色を生かしたこれまでにない切り口での観光誘客が必要であった。中核館である池田20世紀美術館が中心となり、訪日外国人観光客数の増加、文化資源の保全から観光活用への転換という潮流を念頭に事業設計を行う。</p> <p>特に、上野や京都といった文化産業が集積している大規模な都市圏とは異なる「地方の小規模な観光地という視点」から、文化産業を中核とした観光振興による地域経済活性化のモデル事業となるクラスター形成を目指す。また、本クラスターは日本に9箇所ある世界ジオパークに先駆け、文化産業の観点からジオパークと文化観光施設をつなぐ観光活性化スキームを構築し提案したい。</p> |
| <p>区分</p> | <p>(1) 地域の歴史、地域の有形無形の文化財との連携、地域の人材交流</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 地域の文化財の魅力発信</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化</p> <p><input type="checkbox"/>エ 専門人材の育成・確保</p> <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>イ 美術館・歴史博物館クラスター（集積地）としての広報活動</p> |

| | |
|----------------------------------|---|
| <p>実施項目</p> <p>・</p> <p>実施体系</p> | <p>1. <u>地域の歴史、文化財の魅力発信のための取組</u></p> <p>(1)<u>魅力向上のための関連行事の開催</u></p> <p>① 地域住民およびインバウンドを対象とした大室山における野外パビリオン（小規模鑑賞・体験ブース）プログラムの開催・体験プログラムの実施</p> <p>②ジオサイトと地域文化資源を繋ぐコンテンツ開発</p> <p>(2)<u>子供・高齢者・障がい者・外国人に向けた多様な活動の充実</u></p> <p>① ミニ万博における体験型コンテンツ検討会議の開催</p> <p>(3)専門人材の活用・育成</p> <p>①訪日外国人向けサービスに精通したコーディネーターの活用</p> <p>②ジオガイド、ジオパーク、美術館群を対象にした研修会を実施</p> <p>2. <u>ミュージアム・ゾーンの形成</u></p> <p>(1)<u>海外に向けた広報 / 中華圏向け SNS を活用した発信キャンペーン</u></p> <p>（次年度へ向けた自己負担で小規模実験）</p> <p>(2)国内に向けた広報 / 広報パンフレットの作成</p> <p>(3)国内に向けた広報 / クラスタ内施設を紹介するパンフレット製作</p> <p>(4)国内に向けた広報 / クラスタ内文化施設を循環する定期演奏会</p> <p>(5)調査分析事業報告 / 導入した IoT インフラを活用したデータ収集と動向分析</p> <p>(6)多言語対応 / 文化施設における多言語ガイドタブレットレンタル（IoT データ動向分析含む）</p> <p>(7)多言語対応 / 文化施設における多言語ガイドタブレットコンテンツ製作</p> <p>(8)多言語対応 / AI 翻訳サービスを活用した多言語対応</p> <p>(9)観光客利便性向上 / クラスタ内文化観光施設周遊バス試験運行委託費</p> <p>(10)観光客利便性向上 / 外国人向けスマートフォン電子決済端末レンタル</p> |
|----------------------------------|---|

実施後の
成果・効果等

・本年度の事業では下記の効果が見込まれる。

①インフラの試験導入による観光客の利便性向上

本年度は多言語対応タブレットガイドやQRコード決済端末を導入し観光客の利便性の向上をはかった。特にインバウンドにおいては多言語対応されていることで温泉といった宿泊施設からの送客が目立った。

また、QRコード決済導入によって美術館のチケットだけでなくグッズや喫茶といった周辺の消費額増加が見込まれる。市内に外貨を換金できる場所がコンビニ程度しかなく、ATMでの外貨交換は手数料や金利が高くなる。加えて、美術館にきて現金がない場合はそもそも購入ができない。キャッシュレスを導入することでこの「現金の持ち合わせがない」という旅行者の不安を取り除くことで、来年度も引き続き消費額の向上を目指す。タブレットガイドは、従来音声ガイド（イヤホンガイド）が主流だった美術館において、聴覚障害者向けのバリアフリー対応にもなるなどのこがある。

観光客の利便性を向上させるには移動手段も必要だと考え本クラスターでは周遊バスの運行を実施した。このバスはクラスター内の文化施設を周遊する2ルートを策定し、運行した。試験運行であったので利用者は少なかったものの、ジオパークのボランティアガイドに同乗してもらいジオパークの解説だけでなく、各文化施設の紹介なども乗客に発信してもらった。このガイドが好評で宿泊施設からのバスに直接送客などがあり、その乗客が周遊バスという特徴を活かして、ルート上にある美術館を2箇所以上立ち寄るなど周遊性の向上などの兆候が見て取れた。また、単純に一周回る観光バスとしての利用客も多く、今回の試験運用で新たなニーズの発見につながった。

②ジオパークと文化観光施設の連携PR事業

本年度は各文化観光施設の知名度をあげるために大室山（ジオサイト）でミニパビリオンを開催した。パビリオンは各美術館の一部をジオパークと一緒に体験できる仕様とした。これによってジオパークに集中する観光導線を美術館に引き込むPR効果をねらった。ジオパークに認定された際には伊豆高原内の観光導線がジオパークに集中し硬直化する懸念があり、実際に施設の入館者数が急激に減少するなどその影響が散見された。

しかし、伊豆高原の美術館はこの高原の風土を糧に形成されてきている。このため、地域の風土に価値を置いているジオパークと地域の文化観光施設は従来親和性が高い。本事業においてパビリオン、周遊コンサート、ジオパークの学習用コンテンツを美術館に設置したタブレットガイドへの搭載など、観光導線の硬直化の緩和のために、両者の交差点となる事業を創出するようしたという成果をあげた。

・本年度の成果まとめ

ジオパークと文化施設の交差点こそが本クラスター全体の持続可能な発展につながっていき、ひいては地方の観光地が取り組むことのできる事業モデルを提示することにつながっていく。また、テクノロジーなどを活用した自立化を残りの4年で目指していく。

・タブレットにて美術館でジオパークの解説が読めるのは画期的。伊豆高原の自然と文化を一緒に学ぶこ

とで新しい発見がある。

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の機械なので、よく見かけるアプリと違ってスマホで撮影してると思われるんじゃないかというプレッシャーがなくていい。 <p>⑤クラスター内文化施設を循環する定期演奏会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館で音楽の演奏会が聞けることは雰囲気があっていい。 ・コンサートが美術館へ行く直接の要因にはならない。 ・伊豆高原の違う美術館でも同じコンサートが聴いたが、憩いの場としての役割が美術館にはあると思うので、定着して欲しい。 ・20世紀の音楽を20世紀を代表する作品とともに聴けるのは素晴らしい。 |
|--|--|

【事業実績】

・参加者（利用者）の反応（声）一部

①パビリオンイベント

- ・コンサートや美術館など文化芸術だけでなくジオガイドの講演会も非常に勉強になった。美術館巡りを目的に伊豆高原に来たが、ジオパークというものを初めて知った。これをきっかけに日本中のジオを見学してみたいと思う。
- ・大室山にて地域の美術館を体験できることでその美術館に行くきっかけとなった。
- ・美術館は敷居が高いと思っていたが実際にいてみたいと思う
- ・外に出て行く美術館というコンセプトは新鮮でジオパークと一緒に楽しめるので次回は実際に美術館を回ってみたい
- ・美術館の学芸員の方が丁寧に紹介してくれたのが良かった
- ・ジオパークを目的に来たがこの後池田20世紀美術館に行ってみようともう
- ・VRとか映像体験ができるものを置いて欲しい
- ・ジオパークと美術館だけでなくコンサートや地域の特産品も楽しめたのがとてもいい。来年もまたきたい。
- ・日本にこんなに美術館があることを知らなかった（ヒアリング担当者訳）
- ・東京から旅行に来たが現地での予定もなかったので専用バスも出ているのでイベントの後に美術館巡りをすることにした。

②周遊バス

- ・初めて知った施設や知っていたけど場所が分からなかったのが知れて良かった。
- ・車が無いので行く機会が無かったがこの様なバスがあると嬉しい。
- ・高齢者なので免許を返上したためマイカー移動ができないから周遊バスなどがあれば観光の目的地に選びやすい。
- ・専用バスが走っていることを知らなかった。ポータルサイトなどがあれば掲示して欲しい。
- ・ジオガイドが車内でジオパークだけでなく各美術館の紹介までしてくれたのでジオパークを目的に来たが、美術館も巡ってみようと思う。
- ・座席にタブレット端末がついており、文字情報や画像が表示されるので難聴者の自分にはありがたい。
- ・コースについて：コースに名前が付けられる様に目的が分かり易いルート名が欲しい
- ・大室山だけでなく各ジオサイトでも乗降出来る様にしたい

- ・貸切バスならば自由に停車し自由に乗降可能なのではないか。
- ・コンビニやお食事どころなどでも活用できると1日の観光予定が立てられる。
- ・ネットの路線検索に登録してくればより便利。
- ・通常の路線バスと間違えてしまったのでラッピングなどでデザインを変えて欲しい。

③キャッシュレス

- ・小銭がなかったのが良かった。
- ・美術館だけでなく、もっと伊豆高原の商業施設にも入れて欲しい。
- ・日本の貨幣がないから土産物を買うことができなかつたので助かる。
- ・美術館の入館料は意外と高いので複数館回るとすぐ手持ちの現金がなくなってしまうので便利。
- ・伊東市内には外貨交換所はなく、銀行は15時に閉まるので不便で消費したいのに消費できない。
- ・友人のSNSでキャッシュレスとかタブレットで外国人対応していると読んで旅行者へのは配慮がある姿勢を感じたので観光しにきた。

④多言語解説タブレット

- ・聴覚障害があるとイヤホンガイドが使えないので文字や画像で解説してくれるタブレットはいい。
- ・作品だけでなく館内情報や館長の意見が読めて良かった。
- ・中国語は簡体字と繁体字の両方が用意されていて台湾と中国の両方の友人に紹介できるのが良かった。
- ・貸出ラックに差し込むだけで充電されるので借り貸しに人手がかからなくて良い。
- ・イヤホンガイドと違い聴覚障害者でも使えるためバリアフリーになる。
- ・上野や京都などではスマホのアプリなども提供されているが、スクリーンショットなどをとられるとコンテンツ流出リスクのコントロールが難しい。一方で館内だけで使える専用タブレットならその安心できる。
- ・静岡県は地震が心配なので避難経路や災害時の行動などをイラストなどで閲覧できるようにして欲しい。
- ・タブレットいて美術館でジオパークの解説が読めるのは画期的。伊豆高原の自然と文化を一緒に学ぶことで新しい発見がある。
- ・美術館の機械なので、よく見かけるアプリと違ってスマホで撮影してると思われるんじゃないかというプレッシャーがなくいい。

⑤クラスター内文化施設を循環する定期演奏会

- ・美術館で音楽の演奏会が聞けることは雰囲気があっていい。
- ・コンサートが美術館へ行く直接の要因にはならない。
- ・伊豆高原の違う美術館でも同じコンサートが聴いたが、憩いの場としての役割が美術館にはあると思うので、定着して欲しい。
- ・20世紀の音楽を20世紀を代表する作品とともに聴けるのは素晴らしい。

